

寺だより

23/04/20
第109号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

西光寺蓮如忌・へんじや参りが やってくる

きたる4月24日(月)・25日(火)、布
教使さんに廣陵兼純先生(輪島市門前)
をお迎えし、蓮如忌をお勤めします。
廣陵先生は、前回おいでたとき、こ
れで最後とおっしゃられたのですが、
今回特別にご講師を引き受けてくださ
いました。

廣陵先生は、節談説教の第一人者で、
能登節の伝承者です。



師 兼純 廣陵

節談説教とは、こと
ばに節(抑揚)をつけ、
洗練された声とゼスチ
ヤーで聞く人の感覚に
訴える詩的、劇的な「情
念」の説教だといわれ
ています。

特に「聞法」を大切
にする浄土真宗では、高度な話芸とし
て発展し、すぐれた説教者を輩出して
きました。

廣陵先生もその一人で、努力と研鑽
を重ね、涙と笑いで長い間、親鸞聖人

の教えを語り続けてこられました。時
に厳しく、時に優しく語ってください
ます。何より、一緒にお念仏申しまし
ようとお話しくださいます。
皆様お誘い合わせの上、お参り下さいま
すようお願い申し上げます。

蓮如忌・へんじや参りとは



R4・4/25 御書様お渡り行列

『蓮如忌』は、
本願寺第八代門
主・蓮如上人の
祥月命日の法要
です。真宗大谷
派では、4月25
日を中心に、各
地のお寺さんで
勤められます。
西光寺では、
「へんじや参り」

と称されるお参りです。

両日、瓶子家で仏事が営まれた後、「へ
んじや御書様」を、さしかけられた朱
傘のもと、瓶子家ご当主がうやうやし
く捧げながら大通りを歩み、西光寺に
移して蓮如忌法要を行います。本堂で
のお勤めの後、また朱傘に守られて瓶
子家へ移動します。

特に25日は、正院町雅楽会の先導で、
ご門徒さんも行道に参加します。

当日のお勤めは、近隣の招待寺院に
よるもので、重々しく荘厳なお勤めで
す。

蓮如忌・へんじや参りのご案内

四月二十四日(月)

一時 御書様 瓶子さん宅出發
一時半 真宗宗歌(伴奏・大正琴)
おつとめ・御書様拝読

法話

恩徳讃斉唱(伴奏・大正琴)
御書様送り出し

四月二十五日(火)

十二時半御書様 瓶子さん宅出發

* 正院雅楽会の先導

一時 真宗宗歌斉唱(伴奏・大正琴)
おつとめ・御書様拝読

法話

恩徳讃斉唱(伴奏・大正琴)
御書様送り出し

◎ お参りの際はお念珠、マスクをお忘
れなく。

◎ 受付は、二日間とも午後からとな
りますので、よろしくお願ひいたしま
す。

へんじや御書様とは



へんじや御書様 端書

蓮如上人は、お手紙（お文）を使い分かりやすい言葉で全国のご門徒さんに布教伝道活動をされたお方です。

「へんじや御書様」は、文
明三年（1442）

年）から五年の間に書かれた十八通のお文を、弟子の下間蓮崇が書写して冊子にまとめたものです。

蓮如上人の筆による端書（右上写真）

に、「于時文明第五九月廿三日に藤島郷の内林郷超勝寺において、この端書を蓮崇所望のあひだ、同廿七日申の剋にいたりて筆をそめおはりぬ」と書かれていますように、蓮崇の願いによって、蓮如上人が端書や表紙の文字を書かれ、本文についても数箇所訂正を施し、さらに新たな「お文」も書き加えられています。

その後、この「へんじや御書様」を手本にしばしば「お文」の編集が行われました。

最終的に、二百数十通のお手紙の中

から八十通を選び五冊に編集されたのが「五帖御文」と呼ばれるものです。通称「お文さま」と呼ばれており、皆様のお内仏にも備え付けられているかと思えます。

蓮如上人が「へんじや御書様」の内容を確認されていらつしやることや蓮如上人の自筆、そして「お文」を冊子の形で聖典として用いた最初の例として資料的な価値もあり、たいへん貴重で重要なものです。

かつては正院以外の町からも「へんじや参り」の日を農休みとし、大勢の方がお参りに来られました。

六十年前には、参道に露店が並び、私たち子どもにとっても楽しい一日でした。

最近では、お参りの方は少なくなりましたが、「御書様」を瓶子家の当主が捧げ持ち、道中雅楽の先導で西光寺まで進む行列は今も続いています。

是非お誘い合わせの上お参り下さいますようお願い申し上げます。

二〇二三年度護持委員会報告

本年度の西光寺護持委員会も昨年引き続き、書面での表決としました。

2月26日（日）、西光寺維持費会計・

昨年度決算と今年度予算等について書面表決の集計を行いました。

その結果についてご報告いたします。護持委員会書面表決の結果報告

議案1 2023年度役員（案）

議案2 2022年度維持費会計收支

決算報告

議案3 2022年度一般会計報告

議案4 2023年度維持費会計收支

予算（案）

議案5 2023年度行事計画（案）

◎ 議案1から議案5まですべて承認されました。

◇ 決算・予算の詳細は別紙をご覧ください。

二〇二三年度西光寺役員会組織

○代表役員 禧美尚章

○責任役員 乙谷衛一・新保七郎・小西堅正

禧美瑠美子

○総代

道下梯子・中堂伊佐男・濱木満喜

桶田紘一・濱田和行・松ヶ瀬昌太

○会計 道下輝男

○監査 森孝司・乙脇善仁

◆門徒会長 乙谷衛一

◇能登教区第10組門徒会会員

西光寺代表 瀬戸谷義信・道下梯子

◇今年西光寺のお世話をいただく護持委員の皆さんです。

- 濱塚辰雄(飯田) 谷 弘之(飯田)
- 山本勇一(飯田) 平地正昭(飯田)
- 平地 清(野々江) 樟 信夫(本江寺)
- 道下秀治(岩坂) 宮崎 茂(岩坂)
- 鼠田弥義(岩坂) 奥 敏彦(飯塚)
- 井高茂樹(飯塚) 瀬名俊司(飯塚)
- 足袋拔重作(飯塚) 川高晋次(飯塚)
- 新出武玄(岡田) 林 進一(東山中)
- 北山道弘(東山中) 大野長一郎(東山中)
- 蒲池幸吉(唐笠) 岡田 直(立町)
- 村元優文(立町) 森 孝司(三社口)
- 道下照王(西浜) 大鍛冶茂信(神明町)
- 奥野昭雄(八幡町) 新出定男(八幡町)
- 辻 雅和(大町) 安宅一男(東浜)
- 安井久良(東浜) 岸田 隆(今町)
- 島中政一(今町) 柳 准三(御城)
- 真田良一(寺丸) 新明あや子(小路)
- 新保日出夫(八軒町) 藤田隆二(前浜)
- 明星加守暢(黒滝) 向 和年(狩的)
- 濱田和行(蛸島) 白瀧輝男(粟津)

春勸化(はるがんけ) 勤まる 2/26~28

2月26日(日)から28日(火)の三日間に渡って春勸化を勤めました。布施使さんは、富山県南砺市からお越しにいただいた馬川透先生にお願いしまし



春勸化 お参りの皆様

た。馬川先生の

お話は、大変わかりやすく、あつという間に法話の時間が終わりました。春勸化最終

日28日には、『お講始め』を久しぶりに行いました。お参りの皆さんと美味しい精進料理をいただきました。



2/28 お講始め

春の彼岸会勤まる 3/21



春の彼岸会 法話

3月21日(火)、春の彼岸会をつとめました。本堂でみなさんと一緒に「正信偈」を唱和し、その後、住職の法話を聴聞しました。

法話会 今年度第一回開かれる!!

ただいま 新規会員募集中

4月8日(土)に今年第一回目の法和会がありました。皆さんで正信偈のお勤めをした後、住職が法話を行いました。

10月まで毎月8日に法和会を開きます。聞法の会ですので、中心は仏法を聞くことです。でも、その他に、正信偈を練習したり、童謡や仏教歌・歌謡曲を歌ったり、楽しいことも盛り沢山。西光寺ではお参りする人がだんだんと少なくなってきました。法和会の会員数も年々減りつつあります。

法和会では、ただいま新規会員募集中です。会費は年間二千円です。まずは、体験。お寺に参って、お念仏のいわれを聞きましょう。

維持費並び地震被害修繕費について

西光寺護持委員会より

維持費は、前年度と同額の四、〇〇〇円です。また、地震被害修繕費(二回目)は、二、〇〇〇円です。

合わせて六、〇〇〇円を六月に集金させていただきます。何かと大変かと思いますがよろしくお願いいたします。

本山の慶法要に参拝しました！



東本願寺御影堂をバックに記念写真

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要に、ご門徒の皆さまとご一緒に参拝して参りました。

4月15日

より16日まで、一泊二日の能登教区第十組団体参拝に、西光寺より八名のご門徒さんと住職・坊守の計十名で参加しました。珠洲市と能登町(旧珠洲郡)の真宗大谷派ご門徒さん総勢70名でご参りしました。

15日は、京都・南座で、親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要記念「若き日の親鸞」を観劇しました。

16日は、阿弥陀堂での音

楽法要参拝。音楽法要は、ふだん聞き慣れているお勤めとは違い、すべて西洋音楽の音の表現による法要の形式です。「正信偈」も「和訳正信偈」を使い



東本願寺阿弥陀堂にて

ました。和訳正信偈は、東本願寺や西本願寺など真宗十派の共通行です。正信偈の和訳にメロディがついています。皆さんで、一生懸命に唱和しました。本山の大きな法要にお参りさせていた

だくご縁をいただいたこと本当に有り難く思っています。

ご参加の皆さまが笑顔でお帰りいただけましたが、住職にとって何よりのご褒美でした。

墓地管理委員会からのお知らせ

昨年度の決算報告は、6月の墓地管理費集金時に配布いたします。

墓地清掃は、6月と8月にシルバー人材センターに依頼する予定です。

【お詫びと訂正】令和5年度寺だより二月号掲載記事の訂正について

年回法要の案内に誤りがございました。お詫び申し上げます。訂正箇所は次の通りです。

誤 三回忌 令和5年
正 三回忌 令和3年

|| 編集後記 ||
もう四月？ まだ四月？

新しい年を迎え、また歳を重ねたなと思いつつ過ぎ去りた一月もいつのまにか過ぎ去りました。そして、二月・三月もあつという間に過ぎ、四月となりました。

よく使う表現ですが、「もう四月？」と表した時には、過去を思い何か足りないと感じ、「まだ四月？」と表した時には未来を思い何か足りないと思いつつから使い分けてる私がいいます。

そこにはまさに生きている「今」が抜け落ちていきます。

過去を振り返り反省することも、未来を思い希望を持つことも大切なことですが、「今」があるからこそ思えることではないでしょうか。

お釈迦さまは、「人間に生まれること難し、やがて死すべきものいま生命あるは有難し」とおっしゃいました。

仏教は「今を生きる」教えです。

限りあるいのちだからこそ、いつ終わるかかわからないのちだからこそ、本当に大切にしなければいけないものに出会っていかなくてはならないと思うことです。

南無阿弥陀仏